

夜墨水を下る（服部南郭）

金龍山畔江月浮 江搖月湧金龍流
扁舟不住天如水 兩岸秋風下二州

金竜 山畔 江月 浮かぶ

江 揺ぎ 月 湧いて 金竜 流る

扁舟 住まらず 天 水の 如し

兩岸の 秋風 二州を 下る

解説 秋夜月明のもと、舟で墨田川を下った折の景を述べたもの。

語釈 ※金龍山 江草寺の東北の隅田河畔にある待乳山の異称で聖天

（歓喜天）を祀る。※江月 江上を照らす月。※扁舟 小舟。

※住 止まる。※二州 武蔵・下総の二国。隅田川は昔はこの二国の境、つまり隅を流れていたのこの称が起った。

通釈 浅草待乳山のほとりの隅田川には、折しも澄みわたった月影がいつも鮮やかに浮かび、川の流れが揺らぐにつれ、月光が湧きでて、あたかも竜が流れているようである。自分に乗せた小舟はただ一色、空や水ともわからぬ水路を兩岸から吹きくる風に送られて止まるところを知らずに流れ下って行く。